

機関番号：12603

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~ 2010

課題番号：20520490

研究課題名 (和文)

日本語母語話者の韓国語学習用コロケーション辞書構築のための基礎的研究

研究課題名 (英文) A Preliminary Study on Developing a Korean Dictionary of Collocation for Japanese Learners

研究代表者

南 潤珍 ( NAM YUNJIN )

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授

研究者番号：30316830

研究成果の概要(和文):日本語と韓国語のコロケーションについて、その語彙・統辞的対応関係を検討することで両言語のコロケーション構造の類似点や相違点を明らかにし、日本語母語話者の韓国語学習用コロケーション辞書を構築するための理論的、実践的基礎をまとめた。その手法としてはコーパス言語学におけるコロケーション抽出の方法を取り入れ、韓国語と日本語のコーパスそして日本語と韓国語の対訳コーパスを対象とし、対応語彙の選定、隣接語彙の頻度調査を行った。

研究成果の概要(英文): Under the goal of providing a theoretical and practical basis for a Korean dictionary of collocations especially for Japanese learners of Korean, the similarities and differences in the structure of Japanese and Korean collocation are explored by examining lexical and syntactic correspondence.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	230,000	690,000	2,990,000

研究分野：外国語教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：コロケーション, コーパス, 対照語彙論, 日韓対照言語学, 辞書学, 韓国語教育

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景として以下の3点があげられる。

## (1) 韓国語と日本語の対照研究の対象

これまでに行われた現代韓国語と日本語の対照言語学的研究は分節音の音価や発音あるいはイントネーションが主になる音韻

対照、助詞、モーダリティ、アスペクト、ヴォイスなど文法システムや構文構造の対照、そして敬語や呼称語が中心になる談話構造の違いに対する分析などがあり、語彙論的接近は複合動詞が主になる複合語の構造や一部の語彙、あるいは慣用句を対象にした比較分析に限られている。これに対し本研究では

これまでの伝統的言語学の枠組みの中でその位置づけがなかなか難しく、ほとんど注目されることのなかった一連の語構成及び複数の語彙の共起現象を対象に取り上げ、語彙論と統辞論の接点に位置するコロケーション論の観点からその言語学的位置づけ、実態の体系的解釈を図るものである。

## (2) 韓国語と日本語の対照研究の方法論

これまでの日韓対照研究は研究者の内省による資料を用いるもの、実際のテキスト資料を用いる場合でも、限られた少量の資料に基づいて単純に用例数の多少を言及するものがほとんどである。本研究では比較的に大規模の対訳コーパスを対象に計量的分析を行い、得られた日本語と韓国語それぞれのコロケーション構造を対照することによって研究方法の厳密かつ体系化を図るものである。

### (3) 韓国語教育の基盤

コロケーション情報を利用した語彙教育の必要性と可能性については英語や日本語を対象とする数多くの研究を通じて明らかになっていることであり、学習者の母語と構造的に似ている外国語学習の場合、その効果は更に高まるとの指摘がある。これらを見ると、日本語母語話者を対象にする韓国語教育においてコロケーション情報の活用可能性が高いことが予想される。現代日本語と現代韓国語は文法面、語彙面ともに数多い特徴を共有しているからである。特に語彙面での類似性は近代韓国語の形成過程に日本語の影響が如何に大きかったのかを反映することとして、学術用語、慣用語、コロケーション構成など様々な形で実現されることである。そのうちコロケーション関係は語彙論と統辞論の境に位置づけられる構成であり、コロケーション関係を覚えることによって文法知識だけでは習得できない多様な韓国語の表現の知識が得られることである。さらに韓国語と日本語のコロケーション構造に対する対照分析の結果に基づいたコロケーション情報の提示によって、両言語の類似性に起因する学習者の誤謬を減らすことも期待される

## 2. 研究の目的

(1) 韓国語と日本語の対照研究の対象を拡張する；一連の語構成及び複数の語彙の

共起現象を対象に取り上げ、語彙論と統辞論の接点に位置するコロケーション論の観点からその言語学的位置づけ、実態の体系的解釈を図る。

(2) 韓国語と日本語の対照研究の方法論を拡張する；比較的に大規模の対訳コーパスを対象に計量的分析を行い、得られた日本語と韓国語それぞれのコロケーション構造を対照することによって研究方法の厳密かつ体系化を図る。

(3) コロケーション情報を活用した韓国語教育を実現するための基盤を提供する；コロケーション関係は語彙論と統辞論の境に位置づけられる構成であり、コロケーション関係を覚えることによって文法知識だけでは習得できない多様な韓国語の表現の知識が得られることである。さらに韓国語と日本語のコロケーション構造に対する対照分析の結果に基づいたコロケーション情報の提示によって、両言語の類似性に起因する学習者の誤謬を減らす

## 3. 研究の方法

(1) オリジナルコーパス分析に基づいた日韓両言語のコロケーションの抽出：すでに構築され公開されている韓国語のコーパス、日本語のコーパスそれぞれを対象に頻度に基づいたコロケーション情報を抽出する。その抽出基準は、先行研究で提示された類型分類に基づき、語彙・統辞論の両面を考慮して定める。

(2) 対訳コーパス分析に基づいた日韓コロケーションの対応関係の記述：オリジナルコーパスから抽出したコロケーション情報を基準として韓日コーパス、日韓コーパスに現れるコロケーション関係の日韓・韓日対応様相を記述する。

(3) 両言語コロケーション辞書のプロトタイプを提案する。

一般的に両言語辞書は、ある見出し語に対する対訳語を提示する、という構造になっている。そして、対訳語の選定は主に文脈が排除された語彙意味に基づいて行われる。とこ

ろで、2つ以上の語彙の共起関係であるコロケーション情報を提示するコロケーション辞書も一般両言語辞書と同じ構造を持つべきなのか。ここで注目されるのが、韓国語のコロケーション構成とその日本語訳の間には多岐な対応関係が窺える、との報告である。これは数々の先行研究で指摘されたとおり、テキストの主題、ジャンル、語用論的要素などによって異なるコロケーション関係が形成されるため現れる現象であると思われる。このようなコロケーション関係の特性を反映しながら、辞書としての要件・利用の利便性、規範性、経済性などを満たされるためには、コロケーション辞書はどのような構造を持つべきなのか。このようなコロケーション辞書の巨視構造をはじめ、対応語の提示方法、解説に含まれる情報の種類など、辞書編纂の実践的問題の解決策を模索していく中で両言語コロケーション辞書のあり方を提案する。

#### 4. 研究成果

一般的に成人の学習者は、韓国語の作文のときに、まず日本語で内容を考え、その日本語に対応する韓国語の表現を見つけるため日韓辞書を引く。ところが日韓の語彙の対応のパターンは、1対1の対応だけでなく、多対1の対応や対応語のない場合があるなど、さまざまであり、日本語を基準とした韓国語との語彙対応のパターンは①日本語語彙：韓国語語彙＝1：1、②日本語語彙：韓国語語彙＝多：1、③日本語語彙：韓国語語彙＝1：多④日本語語彙：韓国語語彙＝1：φのように分類できる。このうち韓国語作文の際に学習者がもっとも困難を感じるだろうと思われる③と④のパターンを中心に考察してみた結果、以下のような語彙対応の情報が得られた。

(1) 日本語単語に対する韓国語の対応語が複数存在する場合、対応語同士の語彙・意味関係、特に類義関係を成す語彙の使い分けに関する情報が必要である。このとき、有効なのがコロケーション関係の情報である。その例としてはまず、「とめる：멈추다 meomchuda, 세우다 se-uda」などがある。日本語‘とめる’の対応語として‘①(停止させる)멈추다 meomchuda, 세우다 se-uda ②(交通手段などを)댈게 하다 meojge hada, (息を)죽이다 jug-ida, 멈추다 meomchuda,③(消

す)끄다 kkeuda, ④(中断する・やめさせる)말리다 mallida, ⑤(禁止する)금지하다 geumjihada, 막다 magda,⑥(固定する)고정하다 gojeonghada, (綴る)칠하다 cheolhada, (貼る)붙이다 but-ida ⑦(注意する)주목하다 jumoghada, 눈길을 멈추다 nungil-eul meomchuda’などがある。韓国語では[停車]の意味であれば‘멈추다 meomchuda, 세우다 se-uda’両方使えるが、[駐車]の意味であれば‘세우다’を用いなければならない。そのため멈추다 meomchuda, 세우다 se-uda の具体的な用法の説明や使い分けの基準が必要である。

次は日本語の‘優しい’は韓国語の‘다정하다 dajeonghada, 상냥하다 sangnyanghada, 부드럽다 budeuleobda, 친절하다 chinjeolhada, 자상하다 jasanghada, 착하다 chaghada’に対応する。それぞれの韓国語対応は類義関係をなしており、そのコロケーション関係を検討した結果、対象名詞句(NP 에게)の有無、名詞の意味的屬性(人間関係を表す意味、男女の区別、上下関係の区別など)によってそれぞれの単語の用法がわけられることが明らかになった。

最後に日本語の‘あと’は時間の前後関係を表すときに韓国語の‘뒤 dwi’と‘후 hu’に対応するが、これらの語彙の使い分けは韓国語母語話者にとっても難しい問題である。ところがこれらの語彙のコロケーション関係を調べて見た結果、‘뒤 dwi’は用言の連体形の後ろに、‘후 hu’は名詞の後ろに現れる傾向が把握できるようになった。

(2) 韓国語対応語の情報は日本語の単語に対するものだけではなくコロケーション構成全体に対する韓国語の対応語、対応構成に関する情報が提示されなければならない。その例としては「暇がある：한가하다 hangahada」などがある。日本語の暇があるに対して韓国語한가하다 hangahada という単語で対応するので、これを韓国語でもコロケーションを用いて「틈이 있다 teum-i issta」に対応させることはできない。

(3) 日本語の単語に対応する韓国語がない場合もある。こうした非対応情報は対応情報と同等な価値を持つという認識の下で対照研究の成果を積極的に取り入れた記述が要求される。その例としては「歩く：걸다 geodda」などがある。

こうした対照研究の結果に基づき、日本語を母語とする韓国語学習者のための日韓辞書の要件として以下のような事項が挙げられる。

(1) 日本語の見出し語に対する韓国語の対応語の提示において、代表形だけではなく、各対応語の形態的情報、すなわち活用形や助詞結合の制約などが提示されなければならない。その例としては「남다 nalkda: 남았-nalkass-, 남은 nalgeun」, 「갖다 gatda: 가져 gajyeo, 가진 gajin」などがある。

(2) 日本語の見出し語に対する韓国語の対応語が複数存在する場合、対応語同士の語彙-意味関係、すなわち類義関係、上下位語関係などの記述が必要である。このとき、有効なのがコロケーション関係の情報である。その例としては「씻다 ssisda: 빨다 palda: 감다 gamda」のコロケーション関係などがある。

(3) 学習者が表現しようとする意味を表す日本語単語が多義語の場合、学習者はその単語が持つ複数の下位意味から適切な意味を特定し、それに当てはまるひとつの韓国語語彙を選択することになる。これは日本語の内省に基づいて判断できる問題である。しかし1つの下位意味に対して複数の韓国語語彙が対応する場合には、それら語彙の使い分けの情報が提示されない限り適切な語彙選択は不可能である。即ち[停止させる]の意味の‘とめる’に対応する‘멈추다 meomchuda, 세우다 se-uda’のように類義語関係を成している語彙の中からもっとも適切な単語が選べられるように韓国語の類義語群の使い分けに関する情報もが提供されねければならないのである。

(4) 日本語の見出し語には個別語彙だけではなく、コロケーション構成までが含まれ、コロケーション構成全体に対する韓国語の対応語、対応構成に関する情報が提示されなければならない。その例としては「名前をつける: 이름을 짓다 ireum-eul jitta/붙이다 butida」, 「暇がある: 한가하다 hangahada」などがある。

(5) 日本語の見出し語に対して対応する韓国語がない場合にもその情報が提示されなければならない。非対応情報は対応情報と同等な価値を持つという認識の下で対照研

究の成果を積極的に取り入れた記述が要求される。その例としては「歩く: 걷다 geodda」などがある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

南潤珍, 韓日対照語彙情報と韓国語学習, 『崔明玉先生停年退任記念国語学論叢』, ソウル: 太学社, 査読無, 2010, 851-873

南潤珍, 表現能力に重点をおいた韓国語学習における対照語彙情報の活用, 『朝鮮半島のことばと社会』, 明石書店, 査読無, 2009, 376-396

[学会発表] (計 4件)

南潤珍, 類義関係からみた日本語と韓国語の語彙の対応関係, 東京外国語大学国際日本研究センター 対照日本語部門 『外国語と日本語との対照言語学的研究』第3回研究会, 2010年12月18日, 東京外国語大学

南潤珍, Contrastive Lexical Information and Collocations in Vocabulary Learning of Korean as a Foreign Language, International Conference on Korean Language and Culture Teaching & Research in the Context of Global Integration, 2009年11月17日ベトナム、ハノイ: ハノイ大学

南潤珍, コロケーションからみた日本語と韓国語の語彙対応, 朝鮮語教育研究会10周年記念大会 2009年9月6日東京: 東京大学

南潤珍, 対照語彙情報と韓国語教育(原題韓国語), 2008 東京韓国語学国際学術大会 2008年10月26日, 東京大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南潤珍 (NAM YUNJIN )

東京外国語大学・大学院総合国際学研  
院・准教授

研究者番号：30316830